



親の読書習慣が 子どもの学習習慣に つながる!?



● 子どもの読書習慣

平成28年度に文部科学省が実施した「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」によれば、小学生が読書をするきっかけとなるのは、「家族と一緒に本を読んだり、図書館や本屋に連れて行ってくれたこと」が最も多く(51.1%)、次いで、「家の中で手に取りやすいところに本が置かれていること」(43.6%)となっています。このことは、常日頃の親の読書習慣が、そのまま、子の読書習慣につながるものと考えられています。

● 「勉強しなさい」と言う保護者の傾向

ある学習塾が、保護者の読書習慣と、子に対して「勉強しなさい」と言う頻度の関連について調査・分析したところ、「勉強しなさい」と言う親ほど読書習慣がないという興味深い結果が出ました。

「勉強しなさい」と口うるさく言う親が、リビングでテレビを見ていたり、スマホをいじったりしているような環境下では、子どもが「どうして自分だけ…」という気持ちになってしまうのは仕方のないことではないでしょうか。

「勉強しなさい」という保護者と保護者の読書習慣との関係

「勉強しなさい」と常に言う親	27.7%	36.2%	36.2%
見かねたら「勉強しなさい」と言う親	30.1%	41.8%	28.1%
「勉強しなさい」と言わない親	40.7%	42.4%	16.9%

■ 読書を週1回以上する ■ 読書は月に数回～年に数回 □ 読書はしない

もし今、自分自身に本を読む習慣がないと思われているのであれば、週に数回、テレビを消して、静かな環境のなかで、好きな映画の原作やエッセイなど、自分が読みやすいものから読んで、その姿を子どもに見せてあげてはいかがでしょうか。図書館ではいろいろなジャンルの本を揃えてお待ちしています。

◎ 新刊のお知らせ



『モノクロの夏に帰る』 額賀 澤/中央公論新社

書籍の内容

海の向こうでは、戦争で毎日人が死んでいる。でも遠くない将来、日本からは、戦争を経験した人がいなくなる。まだ若い僕たちは、この事実とどう向き合えばいいのだろう。「僕は祖父の戦争体験を捏造したことがある」戦時中のモノクロ写真をカラーにして掲載した『時をかける色彩』という写真集が刊行された。

祖父母ですら戦争を知らない二十代の書店員がそれを店頭で並べたことで、やがて世界が変わり始める。平和を祈る気持ちが、小さな奇跡を呼ぶ。読み終えたとき、少しだけ世界が優しく見える感動の青春小説。

◎ その他の新刊(一部)

[児童書]

『ウサギのトリン』、『本おじさんの まちかど図書館』、『ふしぎな図書館とアラビアンナイト』 ほか

[一般小説等]

『ストロベリー戦争』、『三世代探偵団』、『レペゼン母』、『今日拾った言葉たち』、『レッドゾーン』 ほか

'22-23 東図書館カレンダー

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■ は休館日です。

◆ 開館時間 午前10時～午後6時